

第3章

アイヌ民族の 歴史・文化等に関する 体験的活動と関連施設等の活用



札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）をはじめ、民族共生象徴空間（ウポポイ）や北海道博物館などの施設の活用、アイヌ教育相談員の学校派遣や札幌市アイヌ文化交流センターで実施している団体（出前）体験プログラム等を活用した体験的な学習の充実が求められます。

【写真提供：（公財）アイヌ民族文化財団】

1 札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」

(1) サッポロピリカコタンについて

サッポロピリカコタンとは、アイヌ語で「札幌の美しい村」という意味である。

展示室には札幌アイヌ協会の方々が製作した伝統衣服や民具など約300点が展示されており、その場で見て、触れて、体験することが可能で、北の大地に先住し、独自文化を育んできたアイヌ民族の歴史・文化を楽しみながら学び、理解を深めることができる。

■入館無料	
■展示室観覧料	()は団体料金
一般	200円(180円)
高校生	100円(90円)
小中学生	無料(団体引率者無料)



所在地：〒061-2274 札幌市南区小金湯27番地

電話：011-596-5961

FAX：011-596-5967

ホームページ：<https://www.city.sapporo.jp/shimin/pirka-kotan/index.html>



■車で

- ・新千歳空港から約75分(道央自動車道北広島インターで降り、国道230号を南下)
- ・札幌市中心部から車で約40分

■じょうてつバス

- 札幌駅(快速7)(快速8)→小金湯 約60分
- 地下鉄南北線真駒内駅(12)→小金湯 約40分
- *「小金湯」下車、徒歩6分

(1) サッポロピリカコタンの施設紹介

○歴史の里・自然の里

施設の外には、昔アイヌの人たちが住んだり、儀式をしたりしていたチセなどの建物がある歴史の里、植物や水との関わり深い暮らしを体感できる自然の里がある。

イタオマチプ
(板綴り船)
川や湖で使われた。
フゴッペ洞窟(余市
町)の中にも表され
ている。



どのように使われたのかな？



どんな住まいだったのかな？

チセ(家)
アイヌの伝統的な
住居である。
こちらは、ポロ(大
きい)チセと言われ
る。



これは、何のためにあるのかな？

○VTR映像

充実したVTR資料で、展示物を深く考察し、課題設定していくことができる。



アイヌ民族は何を大切にしてきたのだろうか？



VTRに登場する道具を
展示室で見付けてみよう。

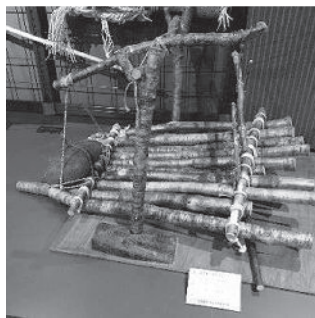


展示室にあるシステムで調べてみよう。



○展示資料

ほぼ全ての展示物に触れることができ、撮影も可能である。アイヌ民族の生活を身近に感じることができ、課題を解決する手がかりを与えてくれる。

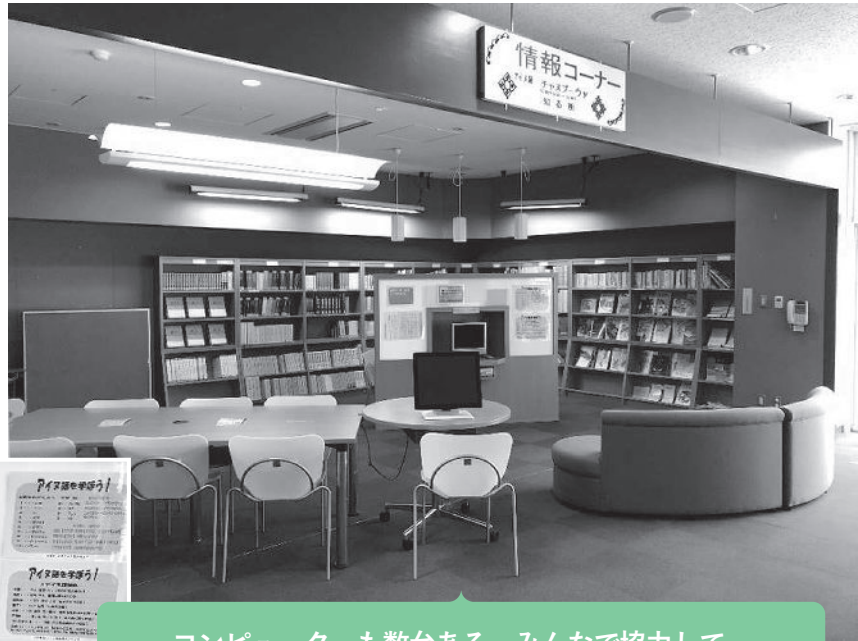


材料や道具の使い方、実際に触ってアイヌ民族の生活を体感しながら、考察してみよう。

○情報コーナー・レクチャールーム・レストコーナー

情報コーナー

アイヌ民族の歴史や文化に関する本が約500冊あり、自由に閲覧できる。



コンピューターも数台ある。みんなで協力して、アイヌ民族の歴史や文化について調べてみよう。

レクチャールーム

約30名ほど収容できる。講演会場として利用もできる。



レストコーナー
約40名ほど収容できる。ここでは飲食が可能である。

訪問した学校からの感想がたくさん寄せられています。

○交流ホール

交流ホール

187席の可動式
客席がある。

(写真は収納時
の状態)多目的ホ
ールとしても利
用できる。



このホールは、体験プログラムを行ったり、
様々な発表をしたりする場所として活用します。



(2) 小中高校生団体体験プログラム・出前体験プログラム

札幌市では、市内の小中高校生が、アイヌ民族の方々と交流することにより、アイヌの伝統文化を体験し、理解を深めることを目的として、小中高校生団体体験プログラム及び出前体験プログラムを実施している。

これらのプログラムを活用し、多くの子どもたちに「アイヌの伝統文化に直に触れる」という貴重な体験を通して、アイヌ文化に対する理解を深めることができる。

(問合せ・申込み先)

〒061-2274 札幌市南区小金湯27番地 札幌市アイヌ文化交流センター

TEL(011)596-5961 FAX(011)596-5967

E-mail : pirka-kotan@city.sapporo.jp

HP : <http://www.city.sapporo.jp/shimin/pirka-kotan/index.html>

体験プログラムの内容【場所：札幌市アイヌ文化交流センター】

プログラムは2時間～2時間半（自由見学を含めると2時間半～3時間）

項目	目安時間	内容	
講話	10分	・アイヌ民族の文化、歴史などについて	
楽器体験	15～20分	・アイヌ民族の方々による伝統楽器の演奏披露 ・ムックリの演奏体験	
舞踊体験	15～20分	・アイヌ民族の方々による伝統舞踊・歌舞の披露 ・伝統舞踊・歌舞体験	
体験 (選択)	A 子ども遊び	20～25分	・昔のアイヌ民族の子どもたちの遊び体験 ※悪天候の場合、一部実施できない場合があります。
	B 切り絵		・アイヌ文様の切り絵体験 ※道具は札幌市アイヌ文化交流センターで用意します。
休憩（10分）			
展示室見学	20～25分	・アイヌ民族が使用していた民具や衣類などの見学 ※展示品に直接触ることができます。	
歴史の里 自然の里 見学	20～25分	・茅ぶきの家（チセ）、水を利用した精米用具（イユタブ）、アイヌゆかりの植物などの見学	
質問コーナー	10～15分	・学習して気になったことやもっと知りたいことなどを質問できます。	
プログラム終了後			
自由見学	30分	自由見学は体験プログラム実施の場合のみ	

子ども遊び(ウコカリプチュイ-投げ輪突き)



切り絵体験



歴史の里・自然の里見学説明(チセの中)



展示室見学説明(着物の解説)



出前体験プログラムの内容【場所：各学校】

プログラムは2時間～2時間半

項目		目安時間	内容
講話		10分	・アイヌ民族の文化、歴史などについて
楽器体験		10分	・アイヌ民族の方々による伝統楽器の演奏披露
舞踊体験		15～20分	・アイヌ民族の方々による伝統舞踊・歌舞の披露 ・伝統舞踊・歌舞体験
体験 (選択)	A 子ども遊び	20～25分	・昔のアイヌ民族の子どもたちの遊び体験 ※児童生徒数により、体育館のほかグラウンドの利用も必要な場合があります。 ※悪天候の場合、一部実施できない場合があります。
	B 切り絵		・アイヌ文様の切り絵体験 ※学校が道具と材料（筆記用具、ハサミ、のり、折り紙3枚と台紙1枚）を用意する。
休憩（10分）			
衣服・民具等の説明		20～25分	・アイヌ民族が使用していた衣服や民具など数点を学校に持っていき、実際に触りながら、伝統的な素材や文様を学びます。
昔のコタン（村）説明		20～25分	・茅ぶきの家（チセ）など昔のコタン（村）の様子の説明 ※学校がプロジェクターを用意する。プロジェクターが使用できない場合はパネルを使った説明を行います。
質問コーナー		10～15分	・学習して気になったことやもっと知りたいことなどを質問できます。

古式舞踊(バッタキウポポ-バッタを表現した踊り)



古式舞踊体験(輪踊り)



プロジェクターによる昔のコタン（村）の説明



衣服・民具等の説明



2 民族共生象徴空間「ウポポイ」

(1) 民族共生象徴空間「ウポポイ」について

民族共生象徴空間（ウポポイ）は、「国立アイヌ民族博物館」と「国立民族共生公園」からなる国立施設で、令和2年（2022年）4月24日に、白老町に開設される。ここでは、アイヌの歴史や文化等に関する幅広い理解の促進を図り、未来に向けてアイヌ文化の伝承と新たなアイヌ文化の発展と創造を学ぶことができる。

「国立アイヌ民族博物館」は、先住民族アイヌの過去と現在を紹介し未来へとつなぐ、アイヌを主題とした日本初・日本最北の国立博物館で、「国立民族共生公園」は、芸能・食・ものづくりなどの見学はもちろん、実際に体験することも可能な豊かな自然を活かした体験型フィールドミュージアムである。

■入場料（ ）は団体（20名以上）料金
 一般 1,200円（960円）
 高校生 600円（480円）
 小中学生 無料

※学校団体はメールによる事前予約が必要です。

※団体予約受付センター

お問い合わせ：011-206-7427

※学校行事として教職員が引率する場合は、20名未満でも団体料金を適用します。

※引率教員、看護師、カメラマン、添乗員は無料です。



提供：文化庁 ※本画像はイメージ図です。

所在地：〒059-0902

北海道白老郡白老町若草町2丁目3

ホームページ：<https://ainu-upopoy.jp/>

■車で（高速道路利用）

- ・新千歳空港ICから約40分
- ・札幌北ICから約65分

■JRで（特急列車利用）

- ・札幌駅から約65分



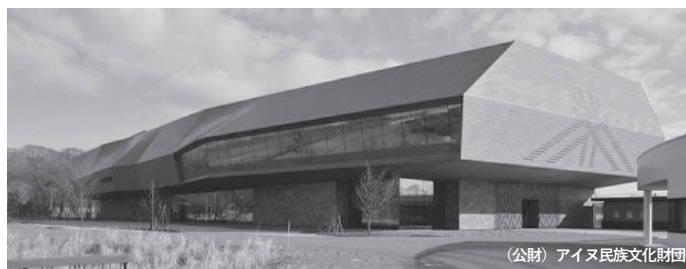
活用のポイント

「国立アイヌ民族博物館」…見るだけでは終わらない多彩な展示から学ぶことができる。
「国立民族共生公園」………見てみる・やってみる・アイヌ文化を五感で体験することができる。

(1) ウポポイの施設紹介

○国立アイヌ民族博物館

先住民族アイヌの歴史・文化を主題とした日本初・日本最北の国立博物館。先住民族であるアイヌ民族の尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する施設である。



博物館の活動

【まなぶ】

子どもから大人まで、アイヌ文化に直接触れ体験する学習プログラムを開発し、社会教育に資する教育普及活動を行っていきます。学校教育との連携も積極的に図っていきます。

【あつめる】

実物資料だけでなく、映像・音声資料や写真、文献、複製などを収集します。また、アイヌ文化等の収蔵資料情報のデータベースを構築し、情報の発信と集約を図ります。

【しらべる・まもる・つなげる】

博物館活動に関わる多角的な調査・研究を進めます。科学の眼で材料や技術を明らかにして、資料の保存だけでなく、修復や伝統的な“つくる”技術について、現在の伝承者とともに考え、伝えていくことを目指します。

【ネットワーク】

アイヌ文化の伝承者・実践者や、博物館や大学、研究機関等との連携・協力体制をつくり、情報の共有・発信、資料の収集や共同研究等を促進します。さらに、被災文化財のレスキュー・修復等に備えます。

①プラザ展示

基本展示室の中央にあり、代表的な資料が一堂に会している。

②探究展示 テンパテンパ

六つのテーマに対応する体験キットを手に取り、展示への理解を深めるコーナーである。



画像提供：文化庁 本画像は、イメージ図です。

③アイヌ民族の視点で語る「6つのテーマ」に沿った展示

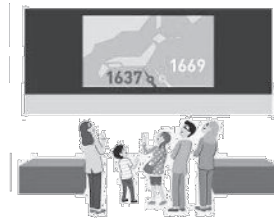
私たちのことば

アイヌ語のしくみやアイヌ語由来の地名などについて、音声や映像を交えて紹介している。



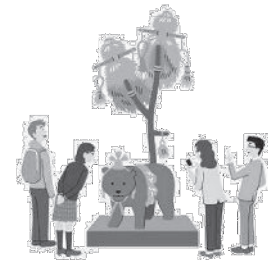
私たちの歴史

現代に続くアイヌの歴史の広がりや連なりを視覚的に分かりやすく紹介している。



私たちの世界

礼儀に使われる道具などを通じて、カムイ（神）の考え方、自然観などについて紹介している。



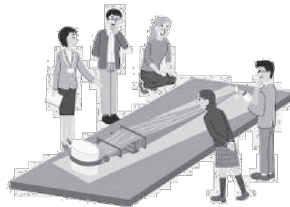
私たちのしごと

狩猟・漁ろう・採集・農耕といった伝統的な生業のほか現代の人々の多様な仕事も紹介している。



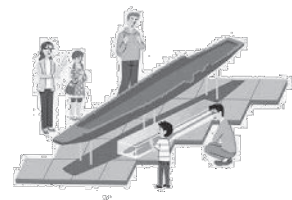
私たちのくらし

衣食住、人の一生、音楽や舞踊など、アイヌ文化の特色や地域差を紹介している。



私たちの交流

交易品を通して、様々な文化や民族との交流をたどるとともに、民族共生の在り方を示している。



④子ども展示

6つのテーマに対応する体験キットを手にとって体感するだけでなく、資料やアイヌ文化について理解を深めるコーナー。



⑤シアター

座席数およそ100席のシアターでは、アイヌ文化を多様なテーマから高精細・大画面映像で分かりやすく紹介している。(所要時間：約20分)

画像提供：文化庁 本画像は、全てイメージ図です。

○国立民族共生公園

国立民族共生公園は、自然の中で培われてきた先住民族アイヌの文化を五感で感じるフィールドミュージアムであり、自然と共生してきたアイヌ文化を尊重し、多様な来園者の理解を促進するとともに、豊かな自然を活用した憩いの場の形成等を通じ、将来へ向けてアイヌ文化の継承および新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための公園的土地利用を図るものである。



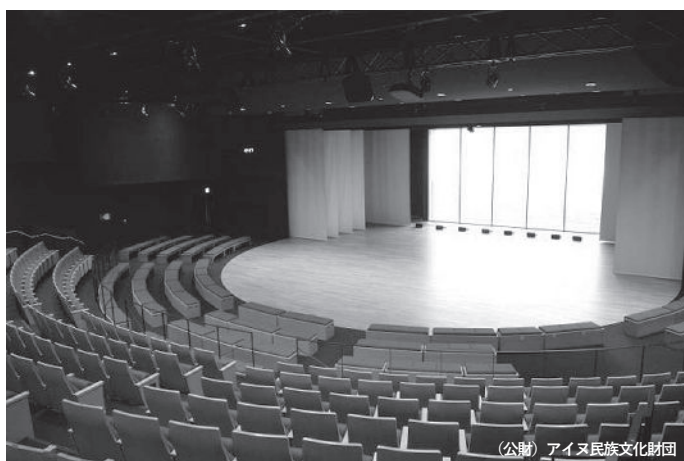
写真提供：文化庁 本画像は、イメージ図です。

基本方針

- 1 自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深める
- 2 異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなる空間を形成する
- 3 豊かな自然を活用した憩いの場を提供する

①体験交流ホール

アイヌ古式舞踊やムックリ演奏などを多くの来場者が一体となって楽しむことができる空間。



②体験学習館

伝統楽器のムックリ演奏体験やアイヌの食文化に触れる試食体験、子ども向けプログラムなどを実施する。



③工房

伝統工芸品の製作風景の見学や来場者による製作体験プログラムを実施する。

木彫や刺繍などの製作体験を通じて、世界にひとつだけの作品作りを楽しむことができる。



(公財) アイヌ民族文化財団

④伝統的コタン

チセ（家）を再現し、伝統的儀礼や伝統的生業などアイヌの生活文化を体験できる空間。



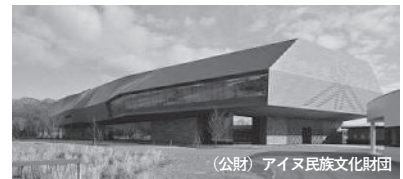
(公財) アイヌ民族文化財団

学校団体向けプログラム

グループレクチャーはじめてのアイヌ博

はじめて国立アイヌ民族博物館に来館する児童生徒のためのガイダンス。

- 設定日：平日のみ（8/21～9/6 除く）
- 定員：最大 150 名（小学校 3 年生以上）
- 料金：無料
- 時間：レクチャー 30 分 + 展示自由観覧（9:00～17:00）



(公財) アイヌ民族文化財団

伝統芸能上演

アイヌ民族が伝承してきた歌や踊り、伝統楽器であるムックリの演奏などを上演する。

- 設定日：平日のみ（7/20～8/31 除く）
- 定員：最大 300 名
- 対象：全学年
- 料金：無料
- 時間：45 分（入場・着席～上演（20 分程度）～退場）



(公財) アイヌ民族文化財団

食事体験

オハウ（伝統的な汁物）ご飯（イナキビ入り）小鉢（野菜・肉類等）など、アイヌの暮らしの知恵と自然の恵みが詰まった食文化を体験できる。

- 設定日：平日のみ
- 定員：最大 300 名
- 対象：全学年
- 料金：1,000 円程度／人
- 時間：50 分（11:30～13:30）



ムックリ演奏体験

アイヌの伝統的な口琴「ムックリ」の独特な音色にふれることができる。

- 設定日：平日のみ
- 定員：最大 300 名
- 対象：小学校高学年以上
- 料金：800 円／人
- 時間：30 分（9:00～17:00）



ムックリ製作体験

アイヌの伝統的な口琴「ムックリ」の製作を体験することができる。

- 設定日：平日のみ
- 定員：最大 40 名
- 対象：小学校高学年以上
- 料金：800 円／人 ※材料費含む
- 時間：60 分（9:00～17:00）



刺繍体験

チェーンステッチなどの基本的な刺繍の技術を学び、アイヌの模様をコースターなどに刺繍することができる。

- 設定日：平日のみ
- 定員：最大 40 名
- 対象：小学校高学年以上
- 料金：800 円／人 ※材料費含む
- 時間：60 分（9:00～17:00）



3 北海道博物館

(1) 北海道博物館について

北海道博物館は、北海道の自然・歴史・文化を紹介する北海道立の総合博物館。自然環境と人との関わりや、アイヌ民族の文化、本州から渡ってきた移住者の暮らしなどを調査・研究し、北海道民の貴重な宝である資料を収集・保存し、展示や教育、イベント・事業などを行っている。総合展示の第2テーマが「アイヌ文化の世界」である。

■入場料 ()は団体(10名以上)料金	
一般	600円(500円)
大学生・高校生	300円(200円)
小中学生	無料
※高校生は土曜日、こどもの日、文化の日は無料です。	



提供：北海道博物館

所在地：〒004-0006

札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2

電話：011-898-0466

ホームページ：<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/>

■国道12号線を走り、野幌森林公園の入口(厚別東小学校前)から曲がり、百年記念塔に向かって坂をあがります。



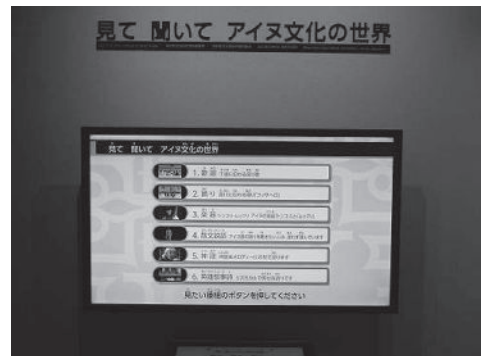
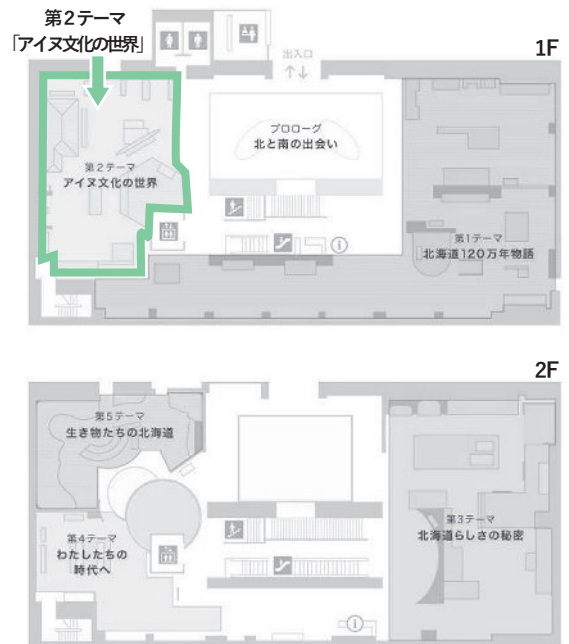
(2) 常設展示室の活用

常設展示室第2テーマ「アイヌ文化の世界」は、展示の構成は、「現在を知る」、「伝統を学ぶ」、「ことばを聴く」、「歩みをたどる」の四つからなる。

日本の先住民族であるアイヌ民族が、北海道をはじめ、サハリン（樺太）、千島列島などを生活の舞台として、様々な文化を育んできたことや、明治政府により、北海道を日本の領土に入れ、開拓を進めるなかで、その生活や文化は大きな打撃を受けたこと、また、今につながるアイヌ民族の歩みなどを学ぶことができる。



〈総合展示室フロアマップ〉



現在のアイヌ民族は、札幌市をはじめ北海道に住んでいるほか、東京や大阪など、それぞれの地域で暮らしている人たちもたくさんいます。

現在のアイヌ民族の衣・食・住や毎日の仕事などの暮らしの姿は、日本に住む大多数の人々と、ほとんど変わりません。現在のアイヌ民族は、日本の他の人々と同じ地域の中で共に暮らしていることを、まずは理解する必要があります。



写真提供：北海道博物館